

社会福祉法人 三愛学園

自立援助ホーム 三愛子ひつじ寮通信

～NO. 1よりONLY ONE 君らしく輝け！～
第5号 2021年 4月 30日

〒366-0829

埼玉県深谷市西大沼 325-2

TEL : 048-594-6406

FAX : 048-594-6416

MAIL : kohitsuji@galaxy.ocn.ne.jp

一年の振り返りと新たなスタート

ホーム長 浅野瞳

三愛子ひつじ寮として、2年目の春を迎えることができました。ご支援・ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。昨年度の三愛子ひつじ寮の事業についてご報告させていただきます。

1. 利用者の最善の利益の追求

安心安全な生活の場の提供のために、ホーム長の住み込み体制を最大限活用し、信頼関係の土台作りに力を注ぎました。また利用者個々の課題に応じた支援が提供できるよう、児童相談所、医療機関等の関係機関と密に連携をはかり、ケース検討会も実施してきました。特に、利用者が今まで生活していた施設とも継続して関わりを続け、アフターケアとしてサポートして頂くことも、利用者が安心して新しい生活を築いていく力となりました。転学や転職についても利用者が決めていく作業に向き合いながら、新たな挑戦を応援してきました。在籍数については年間を通して徐々に増加。昨年度末には、8名となりました。施設内の環境整備については、コロナ禍対策としての助成を受け、利用者用PCなどのネット環境を整備することもできました。退所した利用者には、定期的に連絡を取り、バースデーカードを送る等、見守りを続けています。

2. 重点課題に向けた取り組み

【被措置児童等虐待の根絶のための取り組み】週1回の職員会議実施を目標とし、情報共有と利用者への対応が早急に行われるよう調整しました。人権擁護のチェックシートも本園同様、年2回実施し職員自身の支援のあり方を見直す機会を作りました。

【職員の人材育成】コロナ禍の中で外部研修の機会が減ってしまいましたが、アンガーマネジメント、性教育、ペアレントトレーニングなどをテーマに施設内研修を実施。外部の研修はズームによる研修へ参加し、職員の知識とスキル向上に努めました。メンタルヘルスでは、年休・リフレッシュ休暇を最大限活用し、職員にとっても働きやすい環境を整えました。

【財政】特に光熱費は、利用者の増加に伴い増加傾向ですが、それぞれがエコ・省エネに意識しています。1年間の決算を参考に、持続可能な運営を今後考えていきます。

3. 地域との連携

地域で行なわれる清掃活動に利用者と共に参加してきました。コロナ禍により、地域行事の多くが中止となり、行事を通しての関わりをもつことはできませんでしたが、日々の挨拶等の中で関係を構築してきました。利用者には「地域で生活する」とはどういうことか、迷惑になる行動について繰り返し説明を続けました。今後も三愛子ひつじ寮として、地域に貢献できることに精一杯取り組んで参ります。

4. 法人のサポート体制

毎月運営会議を実施し、運営状況について共有、助言・サポートを頂きました。また宿直サポートとして本園から継続して職員を派遣して頂きました。

~~~~~  
新たな事業計画を元に、利用者にとって最善とは何かを考え、悩みながら向き合っていきます。

今年度も変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## ～子ひつじ寮2年目の春を迎えて～

利用者たちの今

ふたりの新メンバーが加わり、一層にぎやかになりました。  
入学、進級、就職と、それぞれの目標に向かってがんばっています！

### 新しい仲間が増えました

今年3月、中学を卒業したばかりのRさんとM君のふたりが新入寮しました。ファッションとダンスが好きなRさんは当初、人間関係がうまくいかないと心配していましたが、寮でも高校でも早速友だちができ、おしゃべりと明るい笑い声が聞こえています。女性に優しいM君は、女子の集まるリビングにもすぐに慣れ、ハローワークの適性検査でも好評価が得られたそうです。

### 仕事を続けることの素晴らしさと難しさ

1年間、仕事を続けることができ、安定した収入を得られるようになったHさんの次の目標は住まい探しです。グループホーム、一人暮らしなど、いろいろな自立の方法がありますが、関係機関の協力を得て、本人の納得の行く選択ができるといいと思います。新しいことに挑戦する前に緊張し過ぎてしまうT君。気合を入れて初出勤ましたが、「虫と肉体労働がダメ」といい、就職活動をやり直すことになりました。

### 入学・進級で心新たに

新しい高校で2度目の入学式をしたMさん。自分で早寝早起きができるようになり、バス通学も学校生活も楽しいと言っています。職業訓練校に通い始めたAさんは、年配の生徒さんに囲まれて、座学や実技研修を行っています。得意の剪定では褒められたと言っていました。最終学年に進級したMさんは、4年制大学への入学を目指しています。市役所や奨学金の手続きもすべて自分で行っており、文字通り「自立」への道を着々と進んでいます。新たに通信制高校での高校卒業をめざすAさんは、ファッション関係の仕事に進みたいとアルバイトも考えているようです。



仏像の絵を描くのが趣味だ  
という、新入寮のM君が描  
いてくれました。

スタッフルーム



Photo by KT

### ～子どもたちにエール！～

福祉に関わる仕事に携わってから1年が経ちました。子どもとのやり取りで日々自分が変化していく事を実感します。昨日の私は今日の私とは異なります。企業で自我を消し働いていた頃、将来自分がこんな感情を抱くとは夢にも思いませんでした。ゴールを持って行動すれば人生は変わる。皆が独自のゴールを達成するのを応援し続けたいと思います。 (高橋 C)

子ひつじ寮で子どもたちと関わり1年が過ぎました。さまざまな境遇と課題をかかえる子どもたちを理解し対応をする中で、少しづつ子ども達の成長を実感しています。2年目に向けて、子どもたちとも一歩づつ信頼関係を築けていけたらいいと思います。子どもたちが、子ひつじ寮にいる間に、社会性を身に着けて社会に出ていくことを応援していきます。 (小澤 C)



Photo by KT

### ■ご支援・ご寄付のお願い■

子どもたちの生活に必要な物品や食料品のご支援をお待ちしております。米、パン、調味料、お菓子、ジュースなどの食料品や、洗剤、トイレットペーパーなどの日用品は大歓迎です。ご寄付をお考えの方はお電話かメールでご相談ください。

編集  
後記

私たちが子どもの頃、電話は大人が使うものでした。ところが今は、中学生の半数、高校生はほぼ全員がスマホを所有しており、学校や家族・友人との連絡手段だけでなく、重要な学習・娯楽ツールになっています。これからは、年金、健康保険証、2026年には運転免許証もマイナンバーに一本化され、クレジットカードや銀行口座もすべてスマホ1台で管理できる時代がやってきます。持たせるリスクを考えることも大切ですが、自立の必須アイテムとして、賢く便利に使えるスキルを常にアップデートしておくことも重要な仕事であると感じる今日この頃です。(佐藤 C)